

只見町の 巨樹・巨木

企画展





山神杉のブナ次郎



黒沢前平のコナラの巨木

はじめに

奥会津只見町の巨樹・巨木には、ブナ、トチノキ、ナラ（ミズナラ、コナラ）、ケヤキが多い。巨樹とは大きくなる樹種、巨木とは大きな木をいう。環境省は自然環境基礎調査（1988, 2000）の中で、巨樹・巨木調査を行っているが、その対象は、胸高周囲3m以上の木である。この基準に従えば、只見町の総面積747haの76%を占める森林には相当数の巨樹・巨木が存在すると推定される。その理由として、町内に広大な森林が存在し、しかも天然林の面積割合が高いことが挙げられる。

これまでに只見町教育委員会がおこなった巨樹・巨木調査によって編集された『会津只見の自然・植物編』（2001年）および『只見町巨樹・巨木番付』（2004年）

があるが、その後に枯死したり、新たな巨木が発見されたりするなど見直しする必要があった。

この企画展では先の調査を参考としながら、再度、確認し、撮影、再測をおこなった上に、さらに新たに確認した巨樹・巨木を追加してまとめたものである。樹木の大きさだけに注目するのではなく、樹種として大きな個体を取り上げている。その多くは、比較的、人里に近く、アクセスが容易なものを中心に紹介し、奥山に存在する巨樹・巨木については最小限に止めている。

この企画展を通じ、只見町の巨樹・巨木の圧倒的な存在感を楽しんでいただければ幸いである。

巨樹・巨木の測り方



巨樹・巨木の太さや高さは、計測の仕方により大きく異なる。決められた計測法はないが、今回の調査では次のような方法を取った。木の太さは、胸高(1.3m)周囲をスチールメジャーで計測し、円周率で割り胸高直径として求めた。この際、測定者は、立木の斜面上部に立ち、胸高位置(1.3m)で幹に直角になるようにスチールメジャーを樹幹に巻きつけ、メジャーの両端を持ち、しごくようにして締め付け、mm単位まで計測する。この際、表面の凹凸はなぞらないようにする。測定位置が根張りを含むようであれば、通直な幹部まで測定位置を上げ、また、瘤などの異常成長があれば、それを避ける。巨樹・巨木には、しばしばツル植物が取り付いている場合がある。その場合、メジャーは、できる限りその下を通し、正

確な樹幹長を測ることが大切である。ツル植物をどうしても含んでしまう場合は、その旨を記録しておく。太さを過大に評価したいあまり、合体木や根元部分で二股木の幹が合体している個体を測定してしまうことがよくあるので、冷静になって見極めることが重要である。樹高の測定は目測によることが多いが、より正確に計測する方法として、三角関数を使ったブルメライスなどの樹高測定器(測高器)、あるいはデジタル化された光学測高器(例えば、VERTEX)などを用いる方法がある。針葉樹の樹高測定は、比較的容易だが、広葉樹については、樹冠中央部(幹の頂点)を見極める必要がある。

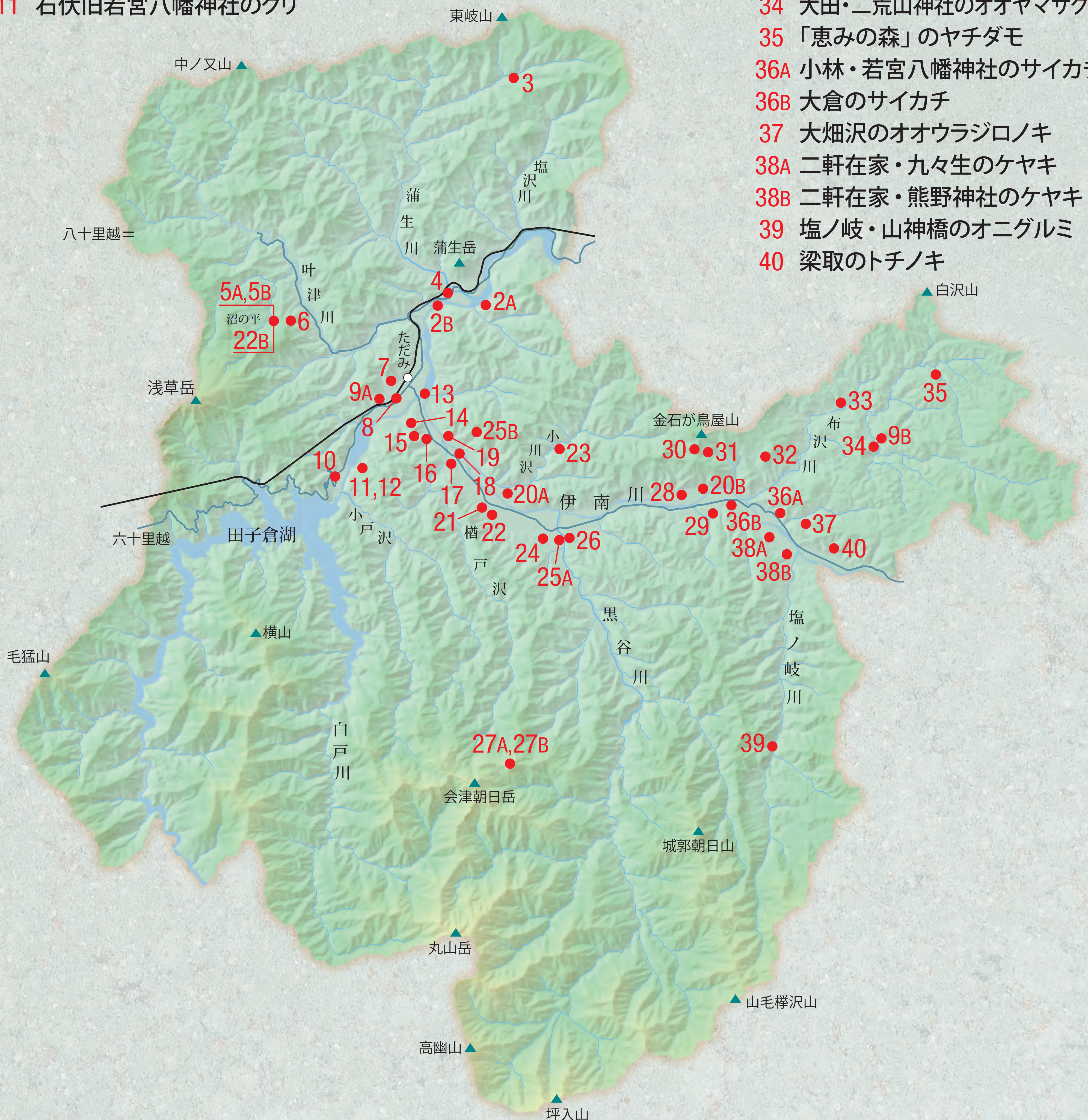
胸高直径や樹高といった樹木の大きさだけを競うのではなく、老齢な樹木の風格も評価して欲しい。

只見町の巨樹・巨木位置図

- 1 塩沢のブナ ※所在地は非公開
- 2A 寄岩のシロヤナギ
- 2B 八木沢のシロヤナギ
- 3 蒲生川のサワグルミ
- 4 蒲生のオニグルミ
- 5A 山神杉のブナ太郎
- 5B 山神杉のブナ次郎
- 6 浅草岳清水場のトチノキ
- 7 只見・扇平のハリギリ
- 8 只見・上町稲荷のキハダ
- 9A 長福寺のカツラ
- 9B 大田のカツラ
- 10 宮淵のヤマナシ
- 11 石伏旧若宮八幡神社のクリ

- 12 石伏旧若宮八幡神社のヤマザクラ
- 13 館ノ川のオオバボダイジュ
- 14 館ノ山のアカマツ
- 15 館ノ山（丸山）のコナラ
- 16 榑戸・椿のアカイタヤ
- 17 榑戸・二荒山神社のケヤキ
- 18 榑戸・横山家のアカマツ
- 19 肘折のメグスリノキ
- 20A 小川のケンポナシ
- 20B 亀岡のケンポナシ
- 21 下福井のスギ
- 22A 下福井のホオノキ
- 22B 小三本沢のホオノキ

- 23 小川沢のミズナラ
- 24 黒谷・瀧泉寺のカラマツ
- 25A 黒谷川のキタコブシ
- 25B 肘折のキタコブシ
- 26 黒谷川のユビソヤナギ
- 27A 叶ノ高手のクロベ
- 27B 叶ノ高手のクロベ
- 28 亀岡のミズキ
- 29 比良林のサラサドウダン
- 30 狙板倉山のヤマナラシ
- 31 日宮沢のブナ
- 32 坂田のコナラ
- 33 布沢のオオヤマザクラ
- 34 大田・二荒山神社のオオヤマザクラ
- 35 「恵みの森」のヤチダモ
- 36A 小林・若宮八幡神社のサイカチ
- 36B 大倉のサイカチ
- 37 大畑沢のオオウラジロノキ
- 38A 二軒在家・九々生のケヤキ
- 38B 二軒在家・熊野神社のケヤキ
- 39 塩ノ岐・山神橋のオニグルミ
- 40 梁取のトチノキ



① 塩沢のブナ



塩沢地区の山中にあり、只見町内でこれまでに確認されたもっとも大きなブナである。付近のゼンマイ道を歩いていた人により偶然に見つけられた。胸高直径は165cm、樹高は未測定である。樹幹は根元部分が曲がっているため地上3mほどで肥大化していて、その上の幹は大きく2本に分かれている。その姿は森の主といった風格が漂っている。現在、このブナと周辺環境の保護のため、所在地は公開していない。みだりに近づいたりしないで、そっと大切にしておきたいブナである。

② 寄岩のシロヤナギ



只見町に分布するヤナギの仲間、もっとも一般的なのはシロヤナギである。河川周辺の氾濫原に形成されるヤナギ林の中心をなす。湿地や林道脇などに広く自生し、大きな個体も見られる。蒲生橋のたもとから寄岩の大畑沢林道を進み、釣堀池の土手に立つシロヤナギが、これまで只見町で確認された中ではもっとも大きな個体で、胸高直径が146cm、樹高が18mもある（写真A）。幹は根元2m付近で大きく二股になっている。2011年7月29日の豪雨災害で、大水を被ったが幸い生き残った。ちなみに八木沢の五礼橋下流にあるシロヤナギの巨木（写真B、胸高直径119.5cm）も、洪水を生き延び樹勢も良好である。